

商工会議所は、市など一定地区内の商工業の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与するための地域の総合経済団体です。各県には県内の商工会議所を会員とした商工会議所連合会有り、会員間の協調を図るとともにその意見を集約し、行政機関および県内経済団体などとも連携して、産業経済の改善・発展に寄与することを目的とした事業活動を行っています。

このシリーズでは、中部9県の商工会議所連合会を訪問し、各県の現況や課題、商工会議所連合会、および傘下の商工会議所の活動などについてのお話を伺います。

第4回となる今回は三重県商工会議所連合会です。

## 第4回 三重県商工会議所連合会

### 三重県商工会議所連合会概要

住 所：〒514-0004 津市栄町1-891 三重県合同ビル6F

代表者：会長 竹林 武一

URL：<http://miepfcci.pro.tok2.com/>

創 立：1948年4月1日

県内商工会議所数：12

地区内商工業者数：61,659（2006年3月現在）

県内商工会議所会員数：26,150（2006年3月現在）



会議所名	所在地	会議所名	所在地
四日市商工会議所	四日市市諏訪町2-5	上野商工会議所	伊賀市上野丸之内500
津商工会議所	津市丸之内29-14	亀山商工会議所	亀山市東御幸町39-8
伊勢商工会議所	伊勢市岩渕1-7-17	尾鷲商工会議所	尾鷲市朝日町14-45
松阪商工会議所	松阪市若葉町161-2	名張商工会議所	名張市南町822-2
鈴鹿商工会議所	鈴鹿市飯野寺家町816	鳥羽商工会議所	鳥羽市大明東町1-7
桑名商工会議所	桑名市桑栄町1-1	熊野商工会議所	熊野市木本町171

三重県商工会議所連合会

専務理事 井ノ口 輔勝 氏



の会議所が業務を運営していたりしますが、当連合会は、事務所は自前で、組織的にも独立しており、業務運営も連合会独自で行っています。会長も、特定の会議所の会頭が兼務するというわけではなく、また職員も県内の会議所からの出向者ですが、出向期間中は連合会の業務しか行いません。

このような連合会は珍しく、だからこそ、さまざまな独自事業ができることとなります。

—独自の事業とは具体的にどのようなものでしょうか。お聞かせください。

井ノ口 どこの連合会でも会頭会議、副会頭会議、専務理事会議は行っているでしょうが、当連合会は、そのほかに産業政策検討会議、環境政策検討会議、国際・観光政策検討会議、人材確保・育成政策検討会議の4つの委員会組織をもっており、それらを中心に活動しています。

メンバーには、各会議所から副会頭や常議員に就任いただいております、それぞれ10名程度で構成されています。各委員会とも年5回程度会議を開催し、学識者や行政担当者、民間の識者などにその時々テーマについて講演いただき、講演後はそのテーマについて活発な議論を交わしています。その他にも、委員会ごとに現地視察や、先進事例地での研修会などを行っています。

このような委員会の活発な議論や現地視察などから、連合会や会議所が取り組むべき課題や方策を検討し、意義ある活動へとつなげています。

こうした委員会組織をもつ連合会は、全国でもあまりないのではないのでしょうか。

三重県商工会議所連合会の役割

—三重県商工会議所連合会の主な役割、事業についてお聞かせください。

井ノ口 三重県には12の商工会議所（以下、会議所）がありますが、その取りまとめ役、調整役が大きな役割の一つです。12の会議所を代表して、関係官庁などに提言や要望を行ったり、国や県をはじめとした各行政機関、団体、協議会の会議などに参画して意見を述べたり、陳情活動などを行っています。これは、どこの県の連合会でも行っていることであり、一般的な連合会の役割と言えますが、当連合会では、このほかにさまざまな独自事業も行っています。

多くの連合会は、県庁所在地の会議所内に事務局があったり、組織的に独立しているものの特

【平成24年度】

検 討 会 議	検討テーマおよび実施事業
産 業 政 策 検 討 会 議	【テ ー マ】医療・福祉機器産業の育成 【実施事業】○ものづくり企業の新分野参入事業セミナー（2回）
環 境 政 策 検 討 会 議	【テ ー マ】新エネルギー 【実施事業】○視察研修会（福島商工会議所、株式会社グリーン発電会津） ○環境エネルギーセミナー（1回）
国 際 ・ 観 光 政 策 検 討 会 議	【テ ー マ】海外事業展開、観光戦略 【実施事業】○ベトナム投資・販路開拓ミッション派遣
人 材 確 保 ・ 育 成 政 策 検 討 会 議	【テ ー マ】キャリア教育 【実施事業】○先進地研修会（瀬戸商工会議所）



まちコン

また、県主催のミッションに参加し、訪問先において商談会なども開催しています。厳しい経済環境のなか、行政や各経済団体と連合会が連携して海外への販路開拓・拡大に貢献する取り組みにも力を注いでいます。

そのほかの事業としては、連合会主催により、県内各地において婚活事業として全国的にも話題となっている「まちコン」を開催しています。若者の地元定着を目的に開始した事業であり、会議所の会員企業だけでなく広く一般に参加を呼びかけており、地域によっては数百名参加という大規模なイベントとなっています。四日市では800名の方が参加しました。街の活性化にも役立つ楽しい事業です。

また、若手経営者をはじめとしたさまざまなキャリアの方をメンバーとする「三重モーニングカレッジ」を新たに始めました。若手経営者の意識向上を目指した取り組みで、有識者などによる講演の後、意見交換、討論を行います。話を聞くだけではなく、刺激しあって人づくりをしていくということが大切な目的だと考えており、いろいろな企業の方々と交流し、視野を広げるチャンスになればよいと考えています。同じテーマで2回開催するなど、立場の異なる講師の方を招いて異なる視点での話を伺うという工夫もしています。最初は津市にエリアを絞ってスタートしましたが、軌道に乗れば、全県に広げていくことも考えています。

このほかにも、年2回の県連合会総会、県政の記者や国会議員、行政などとの懇談会、会議所職



海外ビジネス交流会

員の研修、海外企業を招いてのビジネス交流会など、さまざまな事業を行っています。

**―事業を進めるにあたって、苦勞されている点があればお聞かせください。**

**井ノ口** 組織的に独立しているといっても、各会議所からの負担金収入で運営しているため、実質的な予算上の権限はありません。何をするにも各会議所から負担金をいただかなければできないので、12の会議所すべてに、事業の意義を説明し理解していただく必要があります。

また、津商工会議所からの出向職員2名は、私の指揮監督下にあるものの、人事権まであるわけではありません。予算と人事に関して権限がないという点での苦勞は多々あります。

事業の一切を私を含めた3人でやっているの、本当に忙しい日々です。やらなければならないことは本当にたくさんあり、それに対するアイデアもいろいろありますが、人手が足りません。もう少し職員がいたら、もっといろいろな事業ができるのという思いは常に持っています。

## 三重県の産業

**南北に細長い地形によって、特色ある産業が発達**  
**―三重県の産業の概要、特徴についてお聞かせください。**

**井ノ口** 三重県は、北勢、伊賀、中勢、南勢（伊勢志摩）、東紀州の5地域から成りますが、南北

## 三重県製造品出荷額等の上位5業種（単位：億円）

順位	業種	金額
1位	輸送用機械器具製造業	2,529
2位	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1,886
3位	化学工業	1,051
4位	電気機械器具製造業	528
5位	食料品製造業	390
出荷額総数		9,765

経済産業省：H22工業統計表

に細長い地理的特性から、大きく分けると北勢、伊賀、中勢地域の県北地区と南勢、東紀州の県南地区に分けられます。

三重県は、都道府県別の製造品出荷額等ランキングで9位になるなど、中部圏のものづくり産業に大きく貢献していますが、その中心となるのが県北地区です。

県北地区は中京工業地帯の一角を占め、ものづくりが盛んな地域です。日本を代表する大企業の主要な生産拠点も多くあります。四日市市には日本で初めて稼働した石油コンビナートがあり主要な石油化学会社が多くありますが、そのほかにも東芝の半導体工場がありますし、桑名市には富士通の半導体工場、亀山市には亀山ブランドで有名なシャープの液晶工場、鈴鹿市には本田技研工業鈴鹿製作所、いなべ市にはトヨタ車体の製造工場などがあります。そのほかにも多くの主要企業に生産拠点を置いていただいています。

主要業種は、自動車を代表とする輸送用機械製造業、半導体、液晶などの電子部品・デバイス製造業、石油コンビナートで製造される化学製品製造業であり、この3業種で三重県の製造品出荷額の約7割を占めています。

このことはよいことでもあるのですが、一方では、いずれかの業種が悪くなると三重県の経済、雇用状況が一気に悪くなることにもつながります。このため、三重県では、これらの既存産業に加えて新しい産業の柱をたてるべく、特に、環境エネルギーやライフイノベーション特区による医療・



松阪牛

福祉分野などの育成に力を入れています。

一方、県南地区は、豊かな自然が広がる地域であり、第一次産業や観光産業が主要産業となります。日本を代表する高級肉として有名な松阪牛や全国第3位の生産量を誇る伊勢茶のほか、英虞湾の真珠、伊勢エビや鮑、的矢かき、南紀みかんなど、山海の特産品が豊富で多彩です。

観光の分野では、今年20年ぶりに式年遷宮が行われる伊勢神宮をはじめ、リアス式海岸や多くの島々がきれいな伊勢志摩、世界遺産となった熊野古道など、魅力ある観光スポットが各地にあり、また、志摩スペイン村や鳥羽水族館、二見シーパラダイスなどの著名なテーマパークもあります。最近若い女性を中心に話題となっているパワースポットも多く存在し、大変注目されているようです。

#### ー現況と課題をお聞かせ下さい。

**井ノ口** 製造品出荷額は全国9位になりましたが、付加価値額でみると12位にとどまっています。大手企業の系列や下請企業が多いため、独自製品を開発し付加価値を高めようとする企業が少ないことが原因だと考えています。ものづくりの技術は十分あるのですから、独自の発想により技術を生かして付加価値を上げていくことが大きな課題だと考えています。

第一次産業の分野でも同じことが言えます。山

（注1）社殿を造り替える20年に一度の大祭。正殿を始め御垣内（みかきうち）のお建物全てを建て替えし、さらに殿内の御装束や神宝を新調し、御神体を新宮へ遷す。

と海の恵みが豊富にあるため、素材の提供にとどまってしまう付加価値がついてきていません。ひと手間加えて独自性のあるものを提供することが必要だと認識しているのですが、なかなか難しいことで大きな成果に結びついていないのが現状です。

観光に関しては、高速道路の開通などによって交通の便がよくなり多くの方に来ていただくようになりました。しかし、近くなったことによって日帰りで帰る方が多くなり、宿泊を伴う観光に結びついていないのが現状です。観光産業の活性化のためには宿泊していただける観光客の増加が不可欠であり、そのためには地域が連携して魅力づくりを進めていかなければなりません。また、観光客を受入れる宿泊施設の整備も必要です。清潔感やバリアフリー対応はもちろんのこと、最近ではペットの受け入れなども検討が必要となっています。

三重県は、豊かな資源に恵まれて気候風土も穏やかです。それなりに収入を得られ、暮らしに困ることがない。それはそれで良いことですが、反面、よりよいものを求めるといふ熱意に欠けるところがあるように感じます。それが、「いいところまではいっているのだが、もう一歩足りない」原因ではないでしょうか。

ーその対策としての取り組みはありますか？

井ノ口 三重県では、「自然を生かす技術」をコア・コンセプトに、「三重ブランド」という認定制度をつくり地域の特産品などのブランド化を推進しています。また、新しい商品の研究などに向けた取り組みに対する資金補助の制度などもあります。連合会は、そのような県の取り組みに積極的に関与して協力しています。とはいえ、私どものところでは、新しい研究や開発を進めるためのネットワークや仕組みづくりまでであり、その後、いかに熱意を持って進めるのかはそれぞれの企業や人次第です。発展の鍵はそこにかかっていると考えています。このような認識から、先ほどご説明した「三重モーニングカレッジ」とい

う勉強会をスタートしました。この勉強会から、三重県を担う人材が育っていただければうれしいと思っています。

ー県内会議所の特色ある産業振興策があればご紹介ください。

井ノ口 三重の産業を絡めた観光スポットとして好評なのが、「四日市コンビナート夜景クルーズ」です。数年前、各会議所で観光ルートをひとつずつ作ろうというプロジェクトを企画しました。この時、四日市商工会議所から提案されたもので、第一回到船上婚活イベントを開催したところ大好評でした。2010年7月からは四日市観光協会が主体となって運営されており、産業観光バスツアーや宿泊をセットにするなど、さまざまな取り組みを継続して行っています。洗練された機能美を有する強大なコンビナートは、昼間は力強い威容を、夜間は幻想的な輝きをもって人々を魅了します。そうした夜景を海上から楽しむことができます。

2013年度は5月から始めており、たくさんの方の参加申し込みをいただいているようです。

上野商工会議所では、海外からの観光客にも人気がある伊賀忍者にちなんだ取り組みをしています。



「四日市コンビナート夜景クルーズ2013」のチラシ

もっと伊賀上野の町を楽しんでいただこうと、2011年から「～いがにんじゃ～まちじゅう忍者文字の巻!」を開始しました。協力店の店先に、その店の職業に応じたキーワードを忍者文字で記したパネルを展示してもらい、観光客の方々に、パネルの解説をしながら街なかを散策していただくという取り組みです。現在130店以上の店舗が参加しており、観光客の皆さんにたいへん好評のようです。

尾鷲商工会議所では、2012年から「長期実践型インターンシップ・プログラム」事業を開始しています。2012年度は、三重県から「社会的企業人材支援ビジネスモデル構築緊急雇用創出事業」の委託を受けて、岐阜県のNPO法人G-netと連携して全国初の取り組みとなる大学生住み込み型のインターンシップ事業を実施しました。中小企業が抱える課題を、都会に住む就職意欲旺盛な大学生とともに克服して企業の魅力を高めようというプログラムであり、若者の発想をとり入れることで、これまでにないまったく新しい形で企業経営を支援しようというものです。

2012年8月の第1期プログラムには5名、2013年2月の第2期プログラムには6名の大学生が体験就業し、その生き活きとした活動の様子が地元紙などに紹介されました。

2013年度は、尾鷲商工会議所の事業として、学生のインターンシップだけでなくIターンやUターンなどの社会人が地域の中小企業の課題を解決す



2012年度第二期インターンシップ大学生、受け入れ企業の代表および尾鷲商工会議所関係者

るために取り組むと聞いております。

伊勢商工会議所では、今年行われる伊勢神宮の式年遷宮に向けて、2007年から観光客の受け入れ態勢の整備を進めてきており、「お伊勢さん観光案内人と元気再生事業」を実施しています。

お伊勢さん観光案内人は、ご当地検定「お伊勢さん」の上級合格者によるオーダーメイド型の観光ガイドであり、現在では月平均300件を越える依頼を受ける事業へと成長しており、補助金に頼らない独自のビジネスモデルとして評価されています。現在、お伊勢さん観光案内人として約70名の方が登録されています。

元気再生事業は、「お伊勢参りは外宮から内宮へ」のならわしや江戸時代に流行したおかげ参りの仕組みを活用して、観光客を外宮周辺の飲食店などへと誘導しようというもので、内宮への集中と交通渋滞の緩和を図るとともに、外宮周辺の活性化も図ろうという事業です。いずれも、無形の地域資源に光を当て、観光客の満足度向上と再訪者の増加を目指しているものであり、2011年に日本商工会議所の「全国商工会議所きり輝き観光振興賞」を受賞しました。

—今年が20年に一度の伊勢神宮式年遷宮の年です。

式年遷宮に向けた取り組みについてお聞かせ下さい。

**井ノ口** 式年遷宮には多額の費用が必要となりますが、現在は政経分離が徹底されていますので、伊勢神宮といえども式年遷宮の費用は寄付金や募金などで賄われることとなります。「財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会」が設立され、各県に「県本部」を置いて、寄付金や募金などのとりまとめを行います。三重県では当連合会が「三重県本部」の役割を引き受けました。おかげさまで奉賛金は予算の約1.5倍集まっており、式年遷宮は滞りなく実施できるものとほっとしております。

また、三重県では今年から3年間にわたり、行政、事業者、関係団体が協力して「三重県観光キャンペーン『実はそれ、ぜんぶ三重なんです!』」を展開しています。



せんぐう館 ©神宮司庁

2009年には皇大神宮の入り口に架かる宇治橋が新しくなり、2012年3月には外宮に設けられた「せんぐう館」の竣工式がありました。式年遷宮に向けた準備は着々と進んでいます。「せんぐう館」は、式年遷宮が伝えてきた技術や精神を分かりやすく示す資料を展示したり、神道に関する情報などを映像で説明したりするなど、一般の方々に式年遷宮をより身近に感じていただくための施設です。すでに多くの方に来ていただいておりますが、通常は見ることでできない式年遷宮の儀式などの様子も知ることができますので、ぜひ見ていただきたいと思っています。

また、式年遷宮に隠れてあまりクローズアップされていませんが、来年には熊野古道も世界遺産登録10周年を迎えます。

『実はそれ、ぜんぶ三重なんです！』という愛称は1,644件の応募から選ばれたもので、伊勢神宮や熊野古道など多くの観光地、伊勢エビ、松坂牛など豊富な特産品、これら全部を三重県で楽しめます、という思いがこもっています。

参加店からの特典や宿泊券、郷土産品が当たるスタンプラリー、高速道路料金が割引となるドライブプランや電車の旅がお値打ちになるパスポートプランなど、三重県を楽しんでいただける数々の企画を用意しておりますので、ぜひこの機会に、多くの方に三重県にお越しいただき三重の魅力に親しんでいただきたいものです。

## 三重県のインフラ整備

—高速道路の整備も着々と進んでおり、また鉄道網も充実しているように思いますが、三重県の交通インフラについて、どのようにお考えですか。

井ノ口 高速道路は、住民の利便性向上に寄与するのみでなく産業振興、観光振興において大きな武器となります。工場誘致などは、やはり高速道路のインターチェンジに近いところが有利です。

三重県では、新名神自動車道と東海環状自動車道の建設が進んでいますが、それらが通る県北部地区では、自動車産業や航空機産業などの工場や大型配送センターなどの進出が期待されています。

観光面においても、新名神自動車道の亀山JCT—草津田上IC間の開通によって京都、滋賀、大阪など関西方面からの観光客が増えました。また、今年の3月に紀勢自動車道が紀伊長島ICまで延伸したことによって、南勢地区への観光客も増えつつあります。これまでは、一般道しかなく交通がかなり不便でしたが、距離的には伊勢神宮からも近く、伊勢神宮参拝や観光のついでにちょっと寄ってみようという人が増えているようです。今年度中には、尾鷲北ICまで延長する予定ですので、ますます近くなり、多くの観光客が足を伸ばしていただけることを期待しております。

このように道路は徐々に整備されつつありますが、しかしながら私どもはまだまだ十分だとは思っていません。現在建設中の高速道路についてももっと早く整備してほしいですし、四日市近辺の渋滞状況を考えると「第二伊勢湾道路」の早期着工も重要だと思います。また、県南部地区においても、地域振興や災害対策などの観点から、奈良県南部から和歌山に抜ける「東海南海連絡道路」の整備も必要だと考えています。

鉄道に関しては、路線的に充実しているように見えますが、関西本線や紀勢本線といった主要路線でも一部単線区間があったり電化されていない区間があります。少なくとも主要路線については全線複線電化にしてほしいと思います。

また、リニア中央新幹線の東京－名古屋間先行開業が決まりましたが、当連合会としては、東京－大阪間を全線同時開業すべきだと考えています。東京、名古屋、大阪が同時につながることで初めて大きな経済効果が見込まれるのではないのでしょうか。そして是非、三重県を通り停車駅も設置してほしい。そのような思いを実現すべく、2012年8月に奈良県の経済団体などと「リニア中央新幹線建設促進三重県・奈良県経済団体連合協議会」を設立し、東京－大阪間全線同時開業と三重県内、奈良県内における停車駅設置実現に向け、活動を展開しています。

空港に関しては、東海三県の自治体や経済団体等が連携し、中部国際空港の利用促進をしています。地理的に陸上ルートでは時間がかかるため、高速船による海上ルートが開設され、津なぎさまち港と松阪港の2つの港から定期船が出ています。この海上ルートは、県民の利便性向上だけでなく国内外からの観光客の誘致にも大きく貢献しています。



津なぎさまち港

一方、特に県南部地区は関西国際空港にも交通の便が悪くないため、路線が多く便の良い関西国際空港を利用する方も少なくありません。今後、このような方をどのように中部国際空港に誘導し

ていくのが、中部国際空港利用促進に向けた課題だと考えています。

－四日市港は名古屋港と共に伊勢湾におけるスーパー中枢港湾に指定されています。四日市港の整備や活用についてどのようにお考えでしょうか。

井ノ口 四日市港は、日本の代表的な国際貿易港として、また日本有数の石油コンビナートなどを擁するエネルギー供給基地として重要な役割を担っています。2004年に名古屋港とともに伊勢湾スーパー中枢港湾<sup>(注2)</sup>として指定されたのは、伊勢湾全体の連携による国際物流機能の強化が求められているものと認識しています。

四日市港は、国際海上輸送のコンテナ化にも迅速に対応し、東南アジア、中国航路をはじめとするコンテナ定期航路網は年々充実しつつあります。速報ベースですが、2012年の年間外貿コンテナ貨物取扱個数は182,648TEU<sup>(注3)</sup>と過去最高を記録しており、リーマンショックの影響があった2009年を除き、毎年着実に増加しています。

2006年1月には、特定国際コンテナ埠頭の運営事業が開始され、霞ヶ浦北埠頭岸壁（水深14m）の国際海上コンテナターミナルが稼働するなど、機能は着実に強化されていますが、多様化する物流需要や物流の合理化に対応するためには、周辺道路の整備も含めたいっそうの港湾機能拡充が必要だと考えます。

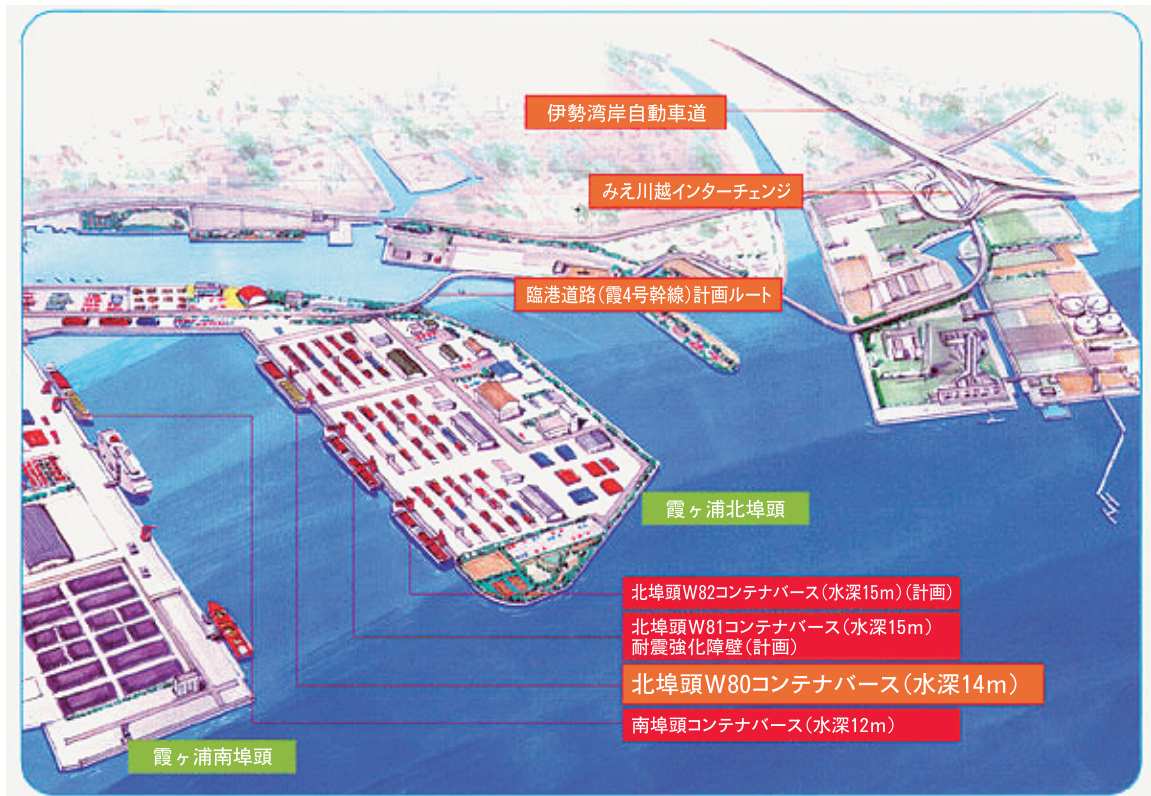
また、四日市港は、「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」を基本理念としています。市民に愛されて親しまれるウォーターフロントの創造をめざした港づくりも進めており、その一環として客船の誘致にも取り組んでいます。

三重県のみならず、国にとっても欠かせない重要な港として、今後も四日市港の整備と活用に努めていきたいと思えます。

(注2) 暮らしや産業に重要な役割を果たしている港湾の機能を強化するために、国・民間事業者・港湾管理者が一体となって、コンテナターミナルの整備や運営方式、コンテナ物流システムの改革を推進している港。

(注3) 「Twenty-foot Equivalent Units」の略で、20フィートコンテナ換算のこと。





進化を続ける四日市港 四日市港事務所ホームページより

三重県には、四日市港のほかに重要港湾<sup>(注4)</sup>として尾鷲港と津松阪港があります。四日市港の陰に隠れがちですが、地域開発の拠点として重要であると認識しており、整備の充実を要望しています。

— 東南海地震に対する備えなど防災対策が進む三重県ですが、連合会としての活動をご紹介ください。

井ノ口 近い将来「東海」・「東南海」・「南海」の3つの大規模地震が同時または連続して発生すると言われています。また、三重県は、地理的に台風などの被害を受けやすく、近年は地球温暖化に伴う気候変動の影響で被害の頻発や激甚化も懸念されています。このため、三重県では、2010年11月に、当連合会の竹林武一会長を代表として、三重大学や行政、企業の方々とともに「みえ企業等防災ネットワーク」を設立しました。設立記念大会の日は、まさに東日本大震災があった2011年3月11日で、しかも講演会をはじめようとしたちょ

うどその時に突然大きな揺れに見舞われ、大きな衝撃を受けたことを鮮明に覚えています。

昨年度までは企業同士の連携をテーマにしましたが、今年度からは、企業と地域の自治体などとの連携という仕組みづくりに力を注いでいく予定です。また、旅館などの観光関連企業の参加も促進していこうと考えています。

地域別の対策としては、木曾三川下流地域では洪水対策、四日市市ではコンビナート火災への対策が重要となりますし、南勢地域や伊勢志摩地域などの熊野灘に面した地区では津波対策が喫緊の課題となります。これらの課題については、行政が中心となって対策を進めており、各会議所はそのバックアップに努めています。

## 今後の課題や抱負

— 今後の課題や抱負についてお聞かせください。

井ノ口 三重県は、ものづくりの技術、豊かな自

(注4) 国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する港湾で政令で定めるもの。

然の恵み、魅力的な観光スポットなど、世界に誇れるよいものが豊富にあります。しかしながら、それを十分に生かしきれていません。そのような資源を活用し、より豊かな社会を築くためには、常によりよいものを追及する向上心が強い人材の育成が重要だと認識しています。新たにはじめた「三重モーニングカレッジ」から、そういった人材が一人でも多く育つことを願っています。

また、そういった資源が豊富にあることを知っていただくことも大切です。いくらよいものがあったとしても、知ってもらわなければ何にもなりません。それをどのようにうまく世界に発信していくか、大きな課題だと考えています。

県北地区と県南地区では、産業構造も生活環境や状況が大きく異なります。それぞれの地域特性を生かしながら、より豊かな社会を築いていきたいと思えます。

### ー三重県から見て、中部圏とはどのような圏域なのでしょう。

井ノ口 難しい質問ですね。中部圏の範囲をどのように見るのかによっても違ってくるでしょうが、9県で考えると、ちょっとピンときませんね。商工会議所の地域ブロックとしては、三重県は東海商工会議所連合会に所属しており、岐阜県、愛知県とはともに活動をすることがあります。また滋賀県も隣接県ということから、一緒に活動することもあります。ほかの県となるとなかなか接点がないのが現状です。しかしながら、北陸3県や長野県も日本の中央に位置する有数のものづくり県であり、また自然にも恵まれているという意味では、大きな共通点を感じます。また、企業活動の範囲は境界がなくなっていることを考えると、ロシアなどの環日本海諸国を臨む北陸地方との連携が、今後ますます重要な意味を持つものことになると思われます。そのような意味から、中部圏は三重県にとって大事なひとつの枠組みと考えています。

ひとつの枠組みといったのは、三重県にとってはそのほかにも関西圏という枠組みも、滋賀県、

奈良県、和歌山県などとの隣接県との枠組みも重要だと考えているからです。歴史的には関西圏からの影響もかなり受けており、実際に県境を接しているのも関西圏の方が多く、交通の便もよいため、色々な接触があります。例えば、台風防災の観点からは和歌山県との連携が重要であり、またリニア中央新幹線問題では奈良県をはじめとした関西圏との連携が必要だと考えています。現代社会においては、ひとつの枠組みにとらわれることなく、ケースバイケースで適切に対応していく必要があると考えています。

数字で見る三重県の姿

県庁所在地：津市 人口286,397人 (2013年2月末現在)

面積	5,777 (km <sup>2</sup> )	2011年
市町村数	29 (市町村)	2013年4月
総人口	1,839 (千人)	2011年度
総世帯数	728 (千世帯)	2011年度
人口密度	318 (人/km <sup>2</sup> )	2011年
就業者数	895 (千人)	2010年
外国人登録者数	45,312 (人)	2011年
産業別就業 者数構成比	第1次産業	3.7 (%)
	第2次産業	31.1 (%)
	第3次産業	60.0 (%)
県内総生産	7,155 (10億円)	2009年度
一人当たり県民所得	2,731 (千円/人)	2009年度
事業所数	92 (千事業所)	2009年
鉱工業生産指数	98.3 (05年=100)	2011年
消費者物価指数	100.2 (05年=100)	2011年
農業産出額	102 (10億円)	2010年
製造品出荷額	9,765 (10億円)	2010年
卸売業年間販売額	2,008 (10億円)	2007年
小売業年間販売額	1,993 (10億円)	2007年
情報サービス業売上高	17 (10億円)	2010年
大学等進学率	52.2 (%)	2011年
乗用車保有台数	38 (台/百人)	2010年度